

## 価値創造のビジョンと戦略

積水ハウスグループの事業

価値創造のプロセス

積水ハウスグループ独自の強み

長期ビジョン

トップコミットメント

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

理念と価値創造の歩み

### 積水ハウスグループの事業

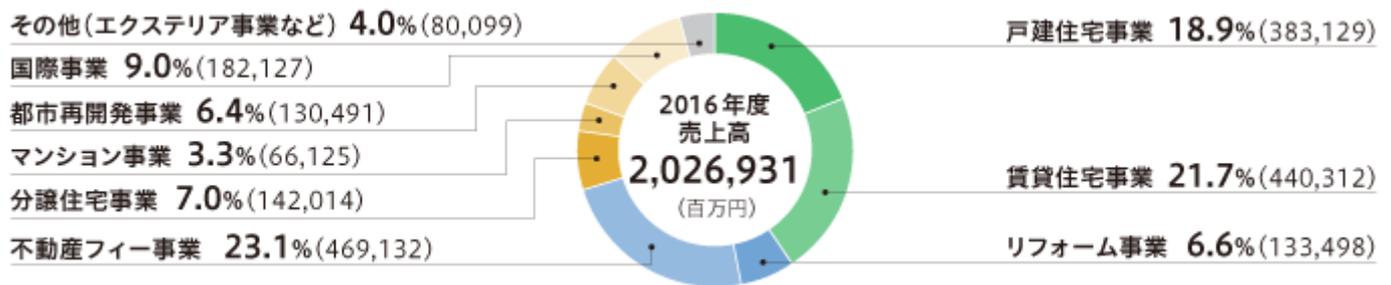
# 「住」に特化した成長戦略の展開から事業創出へ

積水ハウスグループは、1960年の創業以来、住まいに特化した事業を展開し、住宅産業をリードしてきました。

戸建住宅を出発点に賃貸住宅、分譲住宅、マンション、リフォーム、不動産、都市再開発、国際事業など、事業領域を拡大しています。

今後も「SLOW & SMART」のブランドビジョンのもと、各事業の技術・ノウハウ・実績を生かして、暮らしに新たな価値を提供し続けます。

### ■ セグメント別売上高（連結）



## 戸建住宅事業

### 戸建住宅の設計・施工および請負



鉄骨2階建て住宅「イズ・ステージ」



木造住宅シャーウッド「グラヴィス・ステージ」



鉄骨3・4階建て住宅「ビエナ」

[主な関係会社]

◎積和建設19社（住宅の施工等）ほか

### 戸建住宅販売戸数

13,612 戸

プレハブ住宅  
メーカー1位

(2015年度)

出典：株式会社住宅産業研究所住宅産業エクспレス

### ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス累積受注棟数

26,840 棟

日本一

## 賃貸住宅事業

### 賃貸住宅および医療・介護施設等の設計・施工および請負



3・4階建て賃貸住宅「ベレオ」



サービス付き高齢者向け住宅「セレブリオ」

[主な関係会社]

◎積和建設19社（住宅の施工等）ほか

### 3階建て賃貸住宅着工棟数

1,430 棟

日本一

(2015年度)

出典：住宅産業研究所資料

## リフォーム事業

### 住宅の増改築等



リノベーション施工例

#### [主な関係会社]

- ◎積水ハウスリフォーム3社（積水ハウスの戸建住宅の増改築等）
- ◎積和建設19社（一般の戸建住宅等の増改築等）
- ◎積和不動産7社（賃貸住宅の増改築等）ほか

### 累積建築戸数

2,334,222 戸 世界一

### リフォーム事業売上高

1,334 億円 日本一

## 不動産フィー事業

### 不動産の転貸借・管理・運営および仲介等



2階建て賃貸住宅「プロヌーブ」

#### [主な関係会社]

- ◎積和不動産7社（不動産売買・仲介・賃貸借・管理等）
- ◎積和グランドマスト株式会社  
（高齢者向け賃貸住宅の運営・管理等）ほか

### サービス付き高齢者向け住宅累積登録戸数

12,722 戸 日本一

## 分譲住宅事業

住宅・宅地の分譲、分譲宅地上に建築する住宅の設計・施工および請負



「スマートコモンシティ明石台」(宮城県富谷市)

[主な関係会社]

- ◎積和不動産7社(不動産売買等)
- ◎積和建设19社(住宅の施工等)ほか

## マンション事業

マンションの分譲



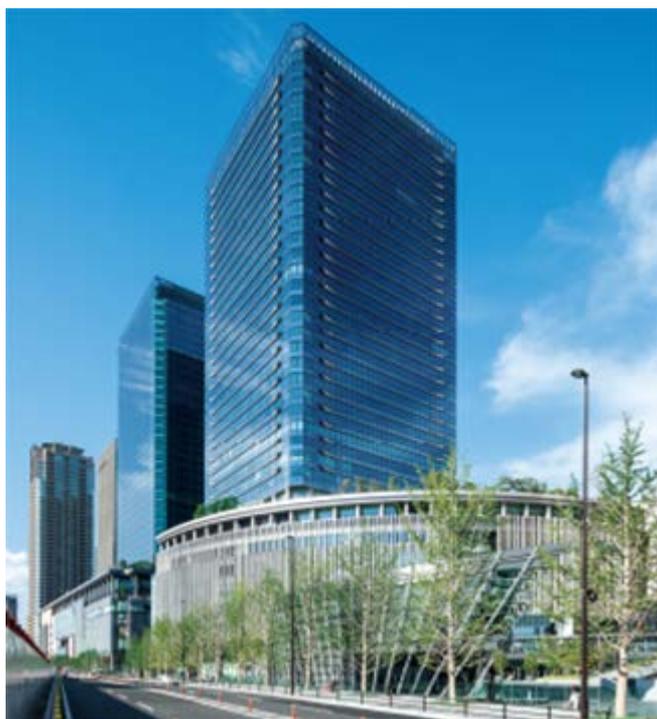
「グランドメゾン仙川」(東京都調布市)

[主な関係会社]

- ◎積和不動産7社(不動産売買等)ほか

## 都市再開発事業

オフィスビル・商業施設等の開発、保有不動産の管理・運営



「グランフロント大阪」

## 国際事業

海外におけるマンション・複合開発事業、分譲住宅および宅地販売、戸建住宅事業



オーストラリア「セントラルパーク」

[主な関係会社]  
©Sekisui House Australia Holdings Pty Limitedほか

## その他

### その他

エクステリア事業等



「5本の樹」計画による外構造園施工例

[主な関係会社]  
©積和建設19社（造園・外構工事等）ほか

※ 累積の数値はいずれも2017年1月末時点

エクステリア事業売上高

**677** 億円 日本一

### 積水ハウスグループ独自の強み

# 培った能力とグループ連携でお客様への価値を最大化

住宅は、消耗型製品と異なり、求められる価値の内容と質が固定的ではありません。

住まいを取り巻く環境の変化、住まい手のニーズや心身の変化、建物の経年変化等に応じて、その時々でお客様に「いつもいまが快適」と感じていただくためには、持続可能な経営によって企業自体が存続し続けることが必要です。

そのためには、サービスを提供し続ける仕組みをビジネスに組み込むことが大切です。

積水ハウスグループ各社は、機能を効率的に分担し、機動的に活動しながら、グループ連携のメリットを生かし、グループ全体の付加価値の向上につなげることで、お客様への最大の価値提供を目指します。

## 技術力——住まいの先進技術

### 住まいの先進技術で豊かな暮らしを実現

安らぐ、くつろぐ、味わう、楽しむなど、住宅の普遍的な価値は、その心地よさにあります。そして、豊かで心地よい暮らしを実現するためには、住まいの基本性能に関する先進技術が必要になります。当社グループは、この考えを

「SLOW & SMART」という言葉で表現しています。お客様に満足いただき、社会的責任を果たすためのブランドビジョンとして位置付け、日々業務に取り組んでいます。

住まいの基本性能と、新しい住まいの価値提案に関する技術力で、「いつもいまが快適」な暮らしを提供することが「SLOW & SMART」の具現化です。

2728人の一級建築士をはじめとするエキスパートが住まいづくりをお手伝いします。

# SLOW & SMART

ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。

【新しい住まいの価値提案】に関する先進技術

スマートUD

よく住むための「住む世界」提案

スローリビング

自然とつながる豊かな暮らし提案

家族のカタチ

多様な家族の住まい方提案

グリーンファースト

エアジョーブリーの新住まい提案

私のスタイル

個性やこだわりを実現する提案

+

【住まいの基本性能】に関する先進技術

自由設計とオリジナル工法

エコを実現する省エネ技術

家族を守る耐震技術

空気にも配慮した健康技術

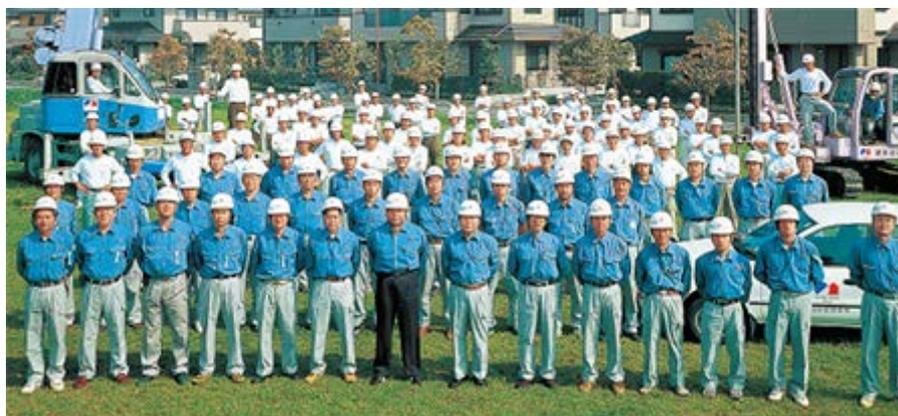
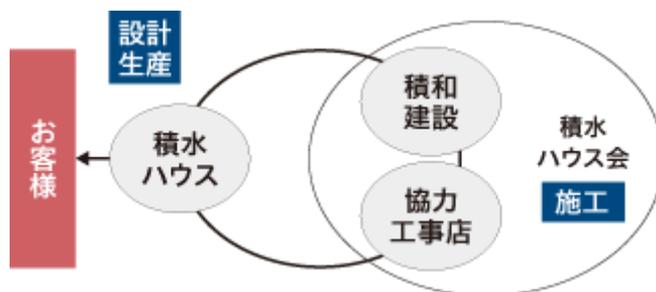
美しく強いオリジナル外壁

高品質を維持する技術

### 完全子会社の積和建設と、協力工事店が責任施工

「お客様一人ひとりに合わせ、邸別に設計・生産・施工する住宅」という特性を担保するためには、現場での施工品質管理が、極めて重要なプロセスとなります。

確かな施工品質を確保するために「責任施工」体制を構築しています。完全子会社の積和建設19社と、協力工事店から成る「積水ハウス会」が研修等による技能レベル向上を進めています。積水ハウスグループは独自の管理システムにより、工程計画、検査情報や工事進捗状況を可視化して積水ハウス会と常に共有し、品質管理を徹底しています。



## 顧客基盤——お引き渡し後も末永いお付き合い

### 従業員1450人がアフターサービスを担当

住宅会社の中には、引き渡し後のアフターサービスを専ら外部業者に委託する企業も少なくありません。しかし、当社では、いつまでも安全・安心・快適に暮らしていただくための適切なアフターサービスも住宅本来の価値と位置付け、全国にカスタムズセンターを設置しています。また、お客様の住まいに関する情報は、全社システムで一元管理しています。

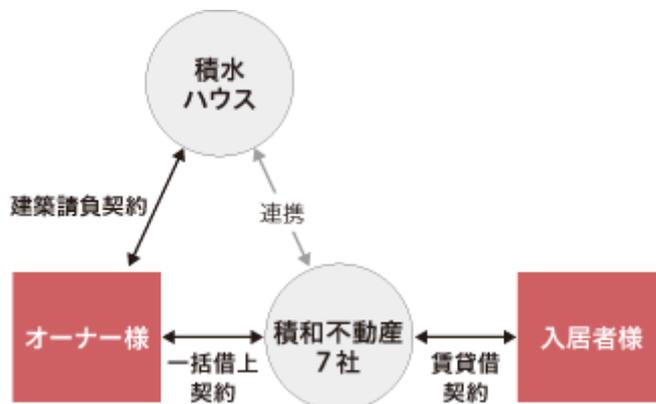
入居後のお客様の意見は、アンケート等を通じて全社にフィードバックし、製品開発やサービス改善の貴重な情報源として活用しています。



## 賃貸住宅の運営・管理をグループ一体でサポート

積水ハウスの賃貸住宅「シャームゾン」は、多様なニーズに自由度の高い設計で対応できるのが特徴です。高い入居率と長期安定経営のためには、完成後の運営・管理が重要になります。

全国に展開する完全子会社の積和不動産7社が、オーナー様の委託を受け、一括借上げから入居者募集、維持管理まで賃貸経営のすべてをサポート。長期にわたって資産価値の維持に当たっています。

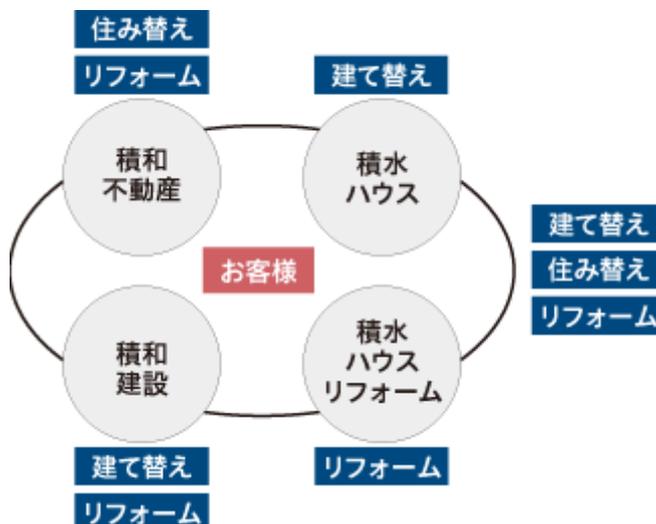


## リフォームから建て替え・住み替えまでグループですべて対応

積水ハウスの戸建住宅は積水ハウスリフォーム3社が、賃貸住宅「シャームゾン」は積和不動産7社が、さらに一般の戸建住宅やマンションなどは積和建设19社が中心となり、小規模なリフォームから大規模なリノベーションまで幅広く対応しています。

業界最多の建築実績により、多様な設備メーカーから多数の建築資材を購入することで最適価格での調達を実現し、リフォームでもそのメリットを生かしています。

また、建て替え・住み替えの際は、グループが連携してお客様のニーズにお応えします。



### トップコミットメント



### 「長寿先進国」として住環境、社会、国のあり方を変える

世界の政治経済の情勢は、不安定・不透明感が増し、その動きが連日のように報道されています。国内情勢では「少子化」「超高齢社会」などの負の側面を取り上げた論評に目が行きがちです。しかし、変化のない社会に進歩はありません。変化はチャンス。大切なのは、流動的な社会情勢に一喜一憂することなく、物事の本質を冷静に見抜き、前向きに受け止め、信念を持って積極果敢に行動することです。そうすることで、一気に視界が開けます。住宅産業の可能性、進むべき道も大きく広がると私は考えています。

超高齢社会も、プラス思考でとらえると、さまざまなイノベーションを生み出す「長寿先進国」という発想が生まれます。「生涯住宅」思想を基本姿勢とする積水ハウスグループは、身体機能の個人差にまで配慮した独自の「スマートユニバーサルデザイン」を確立。冬の入浴中など、いわゆるヒートショックから命を守る温熱環境改善リフォーム・リノベーションなどを含め、ハード・ソフトの両面から先進的な提案を続けています。「健康寿命」を延ばす家。そうした視点、それを支える技術は、近い将来、世界の国々に必要とされることは間違いありません。私たちの新たな強みになるのです。

さらに長寿先進国としての経験を基に考えを進めれば、世界の手本になるような国のあり方、新しい社会の形を示す道筋が見えてくるのではないのでしょうか。

実践のためのキーワードは「生涯活躍」です。企業はもちろん、社会全体で、元気な長寿世代が仕事をもち続けられる仕組みを整える。定年延長などの基本的な制度整備に加え、経済活動の中で有能な個人の力を大切に生かし続ける、これまでにない社会環境づくりといえるでしょう。長寿世代の気力・能力は、これからの日本社会に欠かせない国の財産、資源です。私たちの企業活動の中にも組み込んでいくべき重要なテーマだと考えています。

## インバウンド需要に対応する独自の視点での新たな取り組み

一方で、日本の成長をけん引する柱の一つとして、インバウンド需要への期待が高まっています。政府は2020年の訪日外国人観光客の目標人数を倍増させ、4000万人にすると発表しました。しかし、フランスでは現在でも8000万人以上で、人口を上回る数の外国人が訪れています。日本はまだまだ発展途上です。今後、注目されるのは、いわゆる爆買いなど表層的・一時的な現象ではなく、体験型観光などを含む長期滞在による、地に足の着いた経済効果。そのために必要となるのが、良質で個性豊かな受け入れ環境、多様なニーズを満たす滞在施設の整備です。

特徴的な事業として、積水ハウスグループは株式会社和空プロジェクトと協働し、宿坊創生事業を始動させました。社寺に泊まり、写経・座禅・法話などを体験し、精進料理を楽しむ。その舞台となる宿坊の設計・施工を担います。モノからコトへ、消費ニーズ転換への対応。住宅産業として新たな市場開拓であり、地方創生の動きとも連動し、地方の魅力発信、雇用創出にもつながる、社会的に意義のある事業と位置付けています。

また、東京・赤坂では、シンガポールのフレイザーズ社と提携した高級サービスアパートメント事業がスタートします。同社の最高級ブランド「フレイザーズスイート」の日本初進出です。増加する上質なホテルニーズに対応し、ビジネスや観光目的の長期滞在者にクオリティーの高いサービスを提供します。同社は海外での共同事業で数々の実績を持つ現地パートナーです。富裕層のインバウンド需要に対応するこのプロジェクトは、国際事業の新たな成果、その進化形の一つともいえます。

宿坊と高級サービスアパートメント。路線は異なりますが、これからの事業展開、市場創造に求められるのは、多様化するニーズへの機敏で柔軟な対応です。それを可能にするのは、質の高い住環境の追求、独自の環境技術、常に先駆的な挑戦を続けてきた実績、総合力、そしてビジネスパートナーとの信頼関係です。今後も独自の手法・発想で、多彩な取り組みに着手します。

## 国際事業を深く耕し、夢のある産業として成長を確信

現在では順調に軌道に乗ってきた国際事業を展開する際、三つの条件で進出先を選びました。①人口ボーナスがある国、②資源が豊かな国、③環境意識の高い国。そして、必ず相手の国に喜んでもらえる事業の実現を目指しました。国内市場が縮小するから海外へ進出する。そのような後ろ向きの発想はありません。私たちの環境技術を世界が必要としている。その技術で世界の住宅を変えることは、地球温暖化防止の一助にもなる。自信と使命感を持って、新事業を開拓してきました。積水ハウスグループは、目先の市場拡大、短期投資による利益を目指すことはないということです。

国際情勢が刻々と変化する中でも、この考えが揺らぐことはありません。今後も無定見な拡大路線に走ることなく、現地で歓迎される事業をより深く耕す。「深化」をキーワードにした展開を考えています。

住宅という「個」から周辺環境を含めた住環境を「面」でとらえる積水ハウスグループの環境技術・思想は、高い評価を受けています。オーストラリアのクィーンズランド州で進めている大型宅地開発・住宅建設プロジェクト「エコ・リプリー」は、豪グリーン・ビルディング協会（GBCA）による環境格付け評価で、5スターの認定を得ることができました。「エコ・ファースト企業」である積水ハウスへの信頼は確実に高まっています。健康寿命を延ばす家という新たな発想、独自の技術を生かす場も、今後、増えてくるはずで。

「住まいから、社会を変える」。住宅産業の使命、責任の重さを日々実感するとともに、夢のある産業として成長しているという確信もあります。お客様と生涯のお付き合いをさせていただく住宅事業を基本に、コミュニティの再生、地域・地方の創生へ。国際事業やインバウンド対応の事業から広がる世界の人々、社会との交流。やるべきことは、まだまだあります。私たちが住宅産業という立場で語る夢は、そのまま日本の将来の夢になるといってもよいかもしれません。そのために、広く社会全体を見渡す「鳥の目」、小さな動きを見逃さない「虫の目」、そして、激流の中でも時代の流れをしっかりと見極める「魚の目」。この三つの目を大切にしながらバランスのとれた事業活動を推進し、積水ハウスグループらしい「未来責任」を果たし続けます。

### トップコミットメント

# 社員の心、商品力、施工力。 トータルなブランド 価値を高める

社員がわくわく、ドキドキする  
職場づくり。その活力、総合力で  
事業を効率的に推進

代表取締役社長 兼 COO  
阿部 俊則



### 健全で活力ある職場づくりと好業績の両立

「働き方改革」という言葉が時代のキーワードになり、企業にも高い倫理観を持った対策が求められています。企業が成長するためには、その大前提としてコンプライアンスの徹底が不可欠です。さらに積水ハウスグループの企業理念には「人間愛」という根本哲学があります。「働き方改革」と「人間愛」。この二つをつなぐ考え方として、当社の創業者の言葉を、私は胸に深く刻んでいます。「企業は人で構成され、人は心で動く。社員の心、人格という点で他社を上回りたい」。まず、社員が立派だといわれる会社にすれば、業績は後からついてきます。心身共に健康でなければ、お客様に信頼される人格は形成されません。健全で活力ある職場づくりを何より大切にします。ダイバーシティへの取り組みをはじめ、積水ハウスグループが進める「働き方改革」の根底には、こうした思いがあります。

健全で活力ある職場。私が思い描いているのは、社員が「わくわく、ドキドキする職場」です。夜遅くまで仕事をする職場に未来はありません。仕事と私生活のバランスがとれ、充実した日々を送ることが理想です。平易な表現を使用しましたが、ダイバーシティの進展、人材成長、定着率の向上、こうした効果に通じるテーマです。

理想的な職場環境づくりの推進、そして「住」関連ビジネスを重点テーマに据えた事業戦略。この両輪がしっかりとかみ合い、業績面では連結売上高2兆円を超え、過去最高の数字を達成することができました。営業利益も過去最高を更新しています。これは2008年のリーマンショックからの復活を目指して行ってきた構造改革の大きな成果といえます。本社のスリム化、エリアマーケット戦略、各事業の専門性強化。グループ連携も着実に成果に結び付いています。そして、徹底して推進したのが損益分岐点を意識した経営です。筋肉質の企業体質で利益を生み出す。この路線を継承し、さらなる成長を目指す新しい中期経営計画が始動しました。今、変えるべきこと、守るべきことを見極めながら、積水ハウスグループの強みをより伸ばす事業を展開します。

## ITの活用、相互理解や絆の強化。業務の効率化にも注力

筋肉質の体質を維持・強化するためには、業務の効率化が重要な課題になります。働き方改革とも連動します。現在、設計や現場監督の業務に関して、ITを活用した「能力の見える化」に取り組んでいます。営業職と異なり、仕事の成果を数値化しにくい職種です。そこで、仕事の量・精度・評価などの判断基準を明確にして点数化する。つまり公平、公正に見える化する。その結果、業務上の課題や解決策を共有し、無駄や過剰な業務を効果的に削減することが可能になってきました。施工管理においては、積水ハウスと積和建設の技術業務の重複の見直しにも役立っています。今後、取り組みの精度を高めながら、さまざまな側面から「わくわく、ドキドキする職場」づくりに活用していきます。

「施工力」は積水ハウスグループの大きな強みの一つです。建築長を目指す積水ハウスの社員が一定期間、積和建設の業務を経験するキャリアパスを制度化することにより、連携の緊密化を図ります。「運命協同体」である協力工事店との信頼関係、絆を大切に作る創業以来の企業文化は、誇りを持って受け継いでいきます。また、近い将来、施工現場で働く技能者が、ますます減少することが予測されます。現在、茨城・滋賀・山口の3カ所に設けた訓練校で、次世代の担い手を育成しています。女性にも働きやすい施工現場を目指し、作業環境の改善も進めています。

一方で、協力工事店、取引先から企業倫理違反や取引にかかる懸念事項に関する相談を受けるヘルプラインを開設しました。良い情報だけでなく、悪い情報こそ早期に把握することが大切です。そして、問題には迅速に対応する。コンプライアンス意識、危機対応力の向上を図り、隠ぺい、不祥事のない風土の定着に、引き続き力を注ぎます。

## ブランド力を高め、社会課題の解決につながる領域で成長

新設住宅着工戸数が減少する中、積水ハウスグループは着実に業績を伸ばしています。縮小均衡に陥ることなく、戸建・賃貸住宅を中心とした「請負型ビジネス」を軸に据えながら、リフォーム・不動産フィーなどの「ストック型ビジネス」、分譲住宅・マンションなどの「開発型ビジネス」、そして「国際ビジネス」を育成・成長させる戦略をとってきたからです。また、エネルギー収支をゼロ以下にするネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の普及において業界をリードする「グリーンファースト戦略」を推進してきたことも大きな後押しになっています。2020年までに新築住宅の80%をZEH化する目標へ着実に近づいています。2019年春に名古屋で完成予定の全国初のZEH分譲マンションも注目を集めています。

事業戦略をお客様に訴求するために、戸建住宅事業について、ブランドコミュニケーション戦略の再構築を行いました。付加価値の高い住まいの提案を推進する取り組みです。今後もダインウォール（鉄骨住宅「イズ・シリーズ」のコンクリート外壁）、ベルバーン（木造住宅「シャーウッド」の陶版外壁）など、当社オリジナルの技術を生かした商品を中心に、積水ハウスの原点である中高級路線を堅持し続けます。

賃貸住宅事業については、従来取り組んできたエリアマーケティングをさらに徹底し、都市部を中心に入居競争力の高い良質な物件を建築していきます。2016年度の一括借り上げ入居率は96.5%の高い水準を保っています。

加えて、既存住宅のリフォーム・リノベーション事業を強化する組織体制も再編成しました。温熱環境改善が必要な住宅は約4000万戸、旧耐震基準の住宅は約1000万戸。巨大な市場、まさに成長分野だといえます。今後も時代のニーズを先取りし、先進技術を駆使して、社会課題の解決につながる取り組みに挑戦し続けます。

「価格営業」ではなく「価値営業」。「ニーズ」から「ウオント」、お客様に「欲しい！」とだけ思っただけの積水ハウスへ。そのためには、トータルなブランド価値の向上が不可欠です。積水ハウスグループの基本方針「最高の品質と技術」、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を再確認しながら、グループ全体でCSR経営を基本に位置付け、その結果がCSV（共有価値の創造）につながる事業活動を展開します。

## 理念と価値創造の歩み

# 住まいから「4つの価値」を創造する積水ハウスの歩み

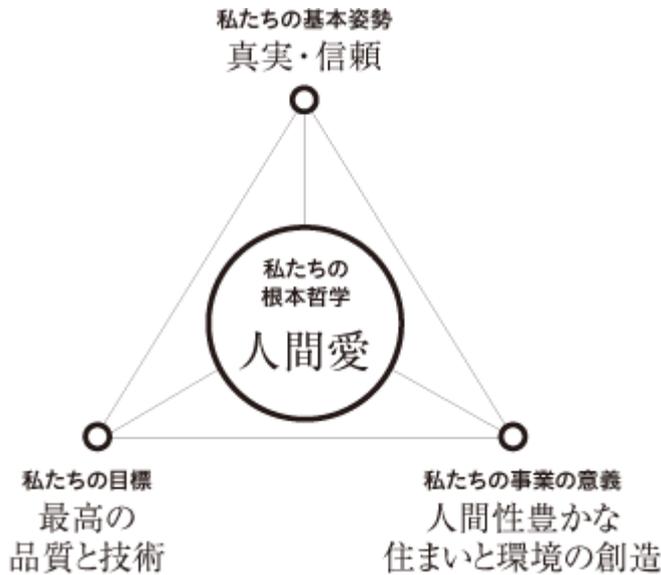
企業理念を礎に、社会の変化やニーズに即応し、住まいを通じて価値を創造・提供してきた積水ハウスグループ。

2005年には、目指すべき「持続可能な社会」をビジョンとして定義し、これを実現・検証するため「環境」「経済」「社会」「住まい手」という「4つの価値」によるバランスのとれた経営を目指すことを宣言。

その後も社会動向やニーズに対応する新商品・新技術開発を加速させ、「4つの価値」を創出してきました。

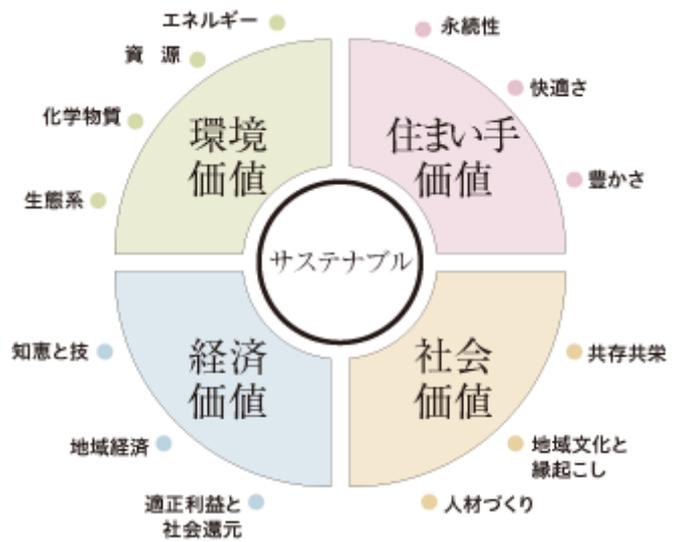
これからも共有価値の創造を継続していくことで、持続可能な発展を目指します。

### 企業理念



「人間は夫々かけがえのない貴重な存在である」という認識の下に、相手の幸せを願い、その喜びを我が喜びとする奉仕の心を以って何事も誠実に実践する事である」という「人間愛」を根本哲学としています。全従業員での討議を経て、1989年に制定しました。

### 「4つの価値」に基づく「13の指針」



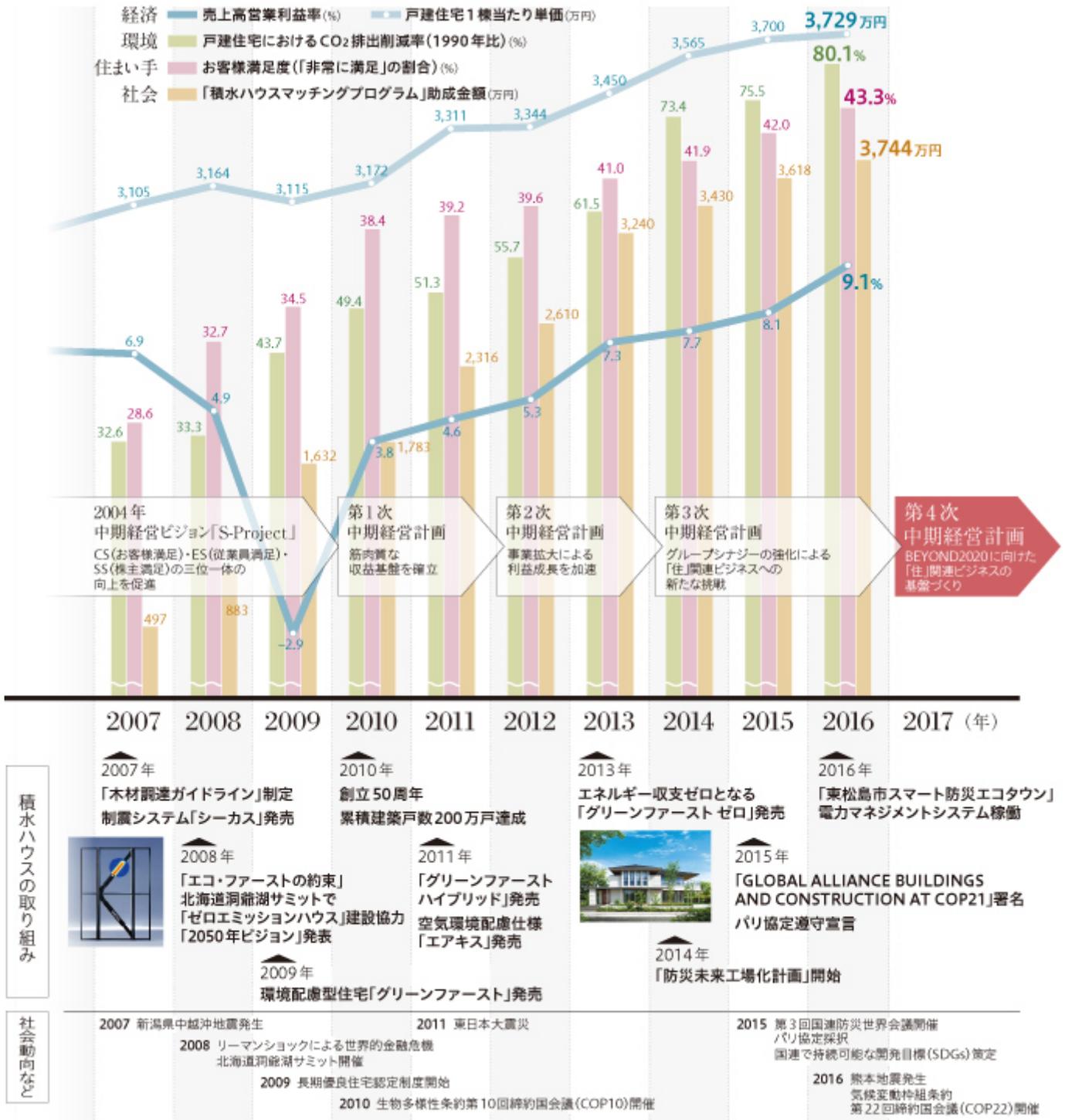
2005年、「持続可能性」を経営の基軸に据え、「4つの価値」によるバランスのとれた経営を目指す「サステナブル・ビジョン」を発表。その行動指針となる「4つの価値」に基づく「13の指針」を2006年に策定しました。

### 積水ハウスグループが創造してきた共有価値

積水ハウスの取り組み	1960年 積水ハウス創立	1982年 自然エネルギーを活用した「PSH-21 (パッシブソーラーハウス)」発売	1999年 「環境未来計画」発表	2003年 「次世代省エネルギー仕様」を全戸建住宅に標準採用
	1979年 住宅業界初の実大振動実験	1989年 「企業理念」制定	2001年 「5本の樹」計画開始 シックハウス対策として内装仕上げ材をFc0・E0仕様に統一	2004年 「住宅防災」の総合的取り組み開始 「省エネ・防災住宅」発売
	1981年 日本初の「障がい者モデルハウス」建設	1996年 住宅業界で初めて高性能遮熱断熱複層ガラスを標準採用した「セントレージΣ」発売	2002年 全工場でゼロエミッション達成 「防犯仕様」を全戸建住宅に標準採用	2005年 「サステナブル・ビジョン」発表 「まちづくり憲章」制定
	日本の高度成長期 オイルショック	1985 オゾン層保護のためのウィーン条約採択	1995 阪神・淡路大震災	2004 新潟県中越地震発生
社会動向など	1981 新耐震設計基準施行	1992 ブラジルで地球サミット開催	2000 住宅の品質確保の促進等に関する法律(品確法)施行	2005 京都議定書発効
	1993 環境基本法公布・施行	1999 環境基本法公布・施行	2002 「新・生物多様性国家戦略」策定 建設リサイクル法全面施行	2006 住生活基本法施行

積水ハウスが創造してきた「4つの価値」の代表的な指標の過去10年間の推移を示しています。

「環境価値」「社会価値」「住まい手価値」創出の取り組みの進展が「経済価値」の向上につながっていることが分かります。



## 価値創造のビジョンと戦略

### 理念と価値創造の歩み

## サステナブル・ビジョン

積水ハウスは2005年4月に「サステナブル宣言」を発表しました。その「サステナブル・ビジョン」を具体化し、事業活動レベルに落とし込むため、日々様々な取り組みを行っています。

環境・経済・社会・住まい手の4つの価値に沿った具体的課題や指針を整備し、その上で研究開発部門、施工部門、CSR室、人事部、環境推進部など社内各部署が横断的に連携し課題解決を図っています。また、ビジネスシステムにおいては、経営企画部を主管部署とし、「サステナブル宣言」のもとに展開する重点施策について事業方針の企画、目標設定、結果の検証を行っています。

また、4つの価値を具体化するために、13の指針を定めました。4つの価値を深く掘り下げた13の指針は、私たちの企業活動を持続可能な方向へ導く道しるべとなります。

### サステナブル・ビジョン

持続可能な社会とは、地球生態系本来のバランスを基本とし、将来にわたってすべての人々が快適に暮らせる社会のこと。当社はお客様にご満足いただける住まいの提供を通じて持続可能な社会の構築に寄与するとともに、その社会の中で暮らしの提供をリードしつづける「住環境創造企業」をめざします。

#### ■ 「4つの価値」に基づく「13の指針」（2006年の策定）



#### ■ サステナブル・ビジョン4つの価値

- [環境価値](#)
- [経済価値](#)
- [社会価値](#)
- [住まい手価値](#)

### 理念と価値創造の歩み | サステナブル・ビジョン

## 環境価値

私たちの社会と暮らしが大切な地球の資源とそこに成り立つ多様な自然から生み出されたことを常に意識しています。環境保全、地球温暖化防止に貢献する住宅産業の役割と責任を自覚し、私たちは住宅が環境に与える影響をライフサイクルを通して把握し、その負荷を削減するための対策を進めています。



### エネルギー

#### 化石燃料に依存しないエネルギー利用の実現

二酸化炭素など温室効果ガスを排出する石油、天然ガスなど「化石燃料」の使用量を減らします。また、未来にわたって持続可能に使用できるエネルギーの普及を促進し、その再生可能な範囲内で利用します。

### 資源

#### 自然生態系の再生能力を超えない資源の利用

3R（リデュース・リユース・リサイクル）を通じて廃棄物を発生させない資源の利用を達成し、同時に、いずれ枯渇する自然資源の使用を、再生可能な資源またはリサイクル資源に置き換え、その持続可能な供給範囲内で資源を利用します。

### 化学物質

#### 自然界に異質で分解困難な物質の濃度を増やしつづけない

化学物質の利用の影響が自然の分解能力の範囲内に収まるよう、使用する化学物質の種類と使用量を抑え、またその影響が不明な場合には事前に関係者と協議して進める予防原則を踏まえて利用します。

## 生態系

### 自然の循環と多様性が守られるよう配慮する

何万年もの歴史を経て地球上の生き物の生存を支え、浄化・再生能力によって我々の暮らしを成り立たせつづけてきた微妙な生態系、生物の多様性を尊重し、これを維持保全することをめざします。

### 理念と価値創造の歩み | サステナブル・ビジョン

## 経済価値

住宅産業は広く社会や経済の活性化に寄与する裾野の広い事業です。新しい技術やサービスも持続可能な社会、住環境と暮らしを豊かにするために還元していきます。魅力的な付加価値を多くの人に提供し、得られた利益を社会に還元する経済の良好な循環をめざしています。



### 知恵と技

#### 「サステナブル」な価値を創造する知恵と技術の蓄積

資源・エネルギーと時間の生産性を高め、環境・社会と調和する知恵、技術、プロセスを開発、蓄積し、「サステナブル」な商品とビジネスモデルを提供しつづけます。

### 地域経済

#### 地域経済の活性化

住まいの提供を行う各地域において、地元の材やサービスを活用し、その波及効果を創り出すことを通じて、地域内での価値の循環による経済の活性化を図ります。

### 適正利益と社会還元

#### 適正な企業利益の追求と社会への還元

事業の持続的成長をめざして適正な利益を追求し、またその過程において関与するお客様、取引先、従業員、株主、地域などのさまざまな関係者への適正な経済価値の配分を行います。

### 理念と価値創造の歩み | サステナブル・ビジョン

## 社会価値

暮らしの器である住まいを提供することは、生活文化を継承し、創造していくこと。美しいまちなみといきいきとしたコミュニティを育むことが私たちの役割です。コンプライアンスをすべてのベースとしつつ、豊かなコミュニケーションを推進し、新しい社会の構築に寄与します。



### 共存共栄

#### 社会のさまざまな関係者との信頼と共感に基づく共存共栄の関係の構築

法の遵守はもちろん、企業市民として積極的に社会貢献活動に従事するとともに、企業活動を通じてつながる現在および未来のすべての人々との双方向コミュニケーションと協働を深め、信頼と共感を醸成し、公正かつ共存共栄の関係を築きます。

### 地域文化と縁起こし

#### 地域文化の継承・醸成とコミュニティ育成

地域の多様な文化を継承・醸成しながら、年が経つとともに美しいまちなみ・景観をつくり、「血縁」「地縁」「知縁」の「縁起こし」の拠点となるコミュニティ育成に貢献します。

### 人材づくり

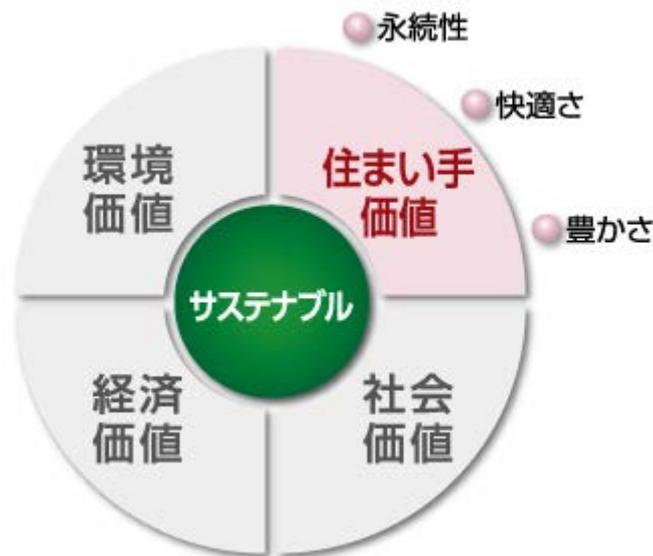
#### 「サステナブル」な価値を創出する人材づくり

従業員の多様性を高め、視野を広げ、人間愛に満ちた「サステナブル」な価値創出の能力を開発し、業務を離れた場面においても社会に貢献できる人材をつくります。また、従業員のワーク・ライフ・バランスを整え、やりがいを提供することで、能力を発揮できる環境を整えます。

### 理念と価値創造の歩み | サステナブル・ビジョン

## 住まい手価値

家族の想いに応える住まいを提案し、すべての人々が生涯、安全・安心で快適に暮らせるための性能を提供します。永く住み継がれる住まいづくりに努め、住まいの資産価値を守ることも私たちの役割です。自然や社会との関係考えた提案によって、永く快適な暮らしを支え、住まい手の価値を高めます。



### 永続性

#### 永く愛され、時とともに値打ちを高める住まいづくり

年月とともに成熟する住まいを持ち、暮らしの変化に対応して永く愛され、住み継がれる住まいを創り、適正なライフサイクルコストを実現し、時とともに値打ちの出る住まいの提供をめざします。

### 快適さ

#### 穏やか、健やかで快適な暮らしの提供

ユニバーサルデザインや防災、防犯、カスタマーズサポートや最適なリフォーム提案などすべての人にとって安全、安心、健康、快適な住まいを提供します。

### 豊かさ

#### 永きにわたる豊かさの提供

家族の想いに応えるコンサルティング・ハウジング（「私だけの一邸」）を通じて、家族や近隣、自然とのふれあい、美しさ、楽しさを創り出し、永きにわたり住まい手の心の豊かさを実現する住まいを提供します。

### 価値創造のプロセス

# 独自の強み・戦略で経済・社会価値を創造

積水ハウスグループは、共有価値を創造するためのビジネスモデルを構築しています。

独自の強みと、各社の専門性を生かしたグループ連携により創造した利益や価値を次の成長に向けて投資。

六つのCSV戦略を実践し、社会やステークホルダーにさらなる価値を創造していきます。

このビジネスモデルをブラッシュアップさせることによって、持続可能な発展が実現すると考えます。

### 価値創造に向けた投資・アクティビティー

## 従業員研修への投資 704 百万円

多様な人材の能力を開発し、それを生かして高付加価値を創造し、世の中に必要とされる企業集団になることが当社グループのミッションであると考えています。お客様の住まいへの思いを受け止め、実現する「人間性豊かなプロフェッショナル」の育成を目的に、階層別および職務別の各種研修を体系的に実施しています。2016年度の教育研修投資は704百万円でした。

## IT環境整備への投資 11,269 百万円

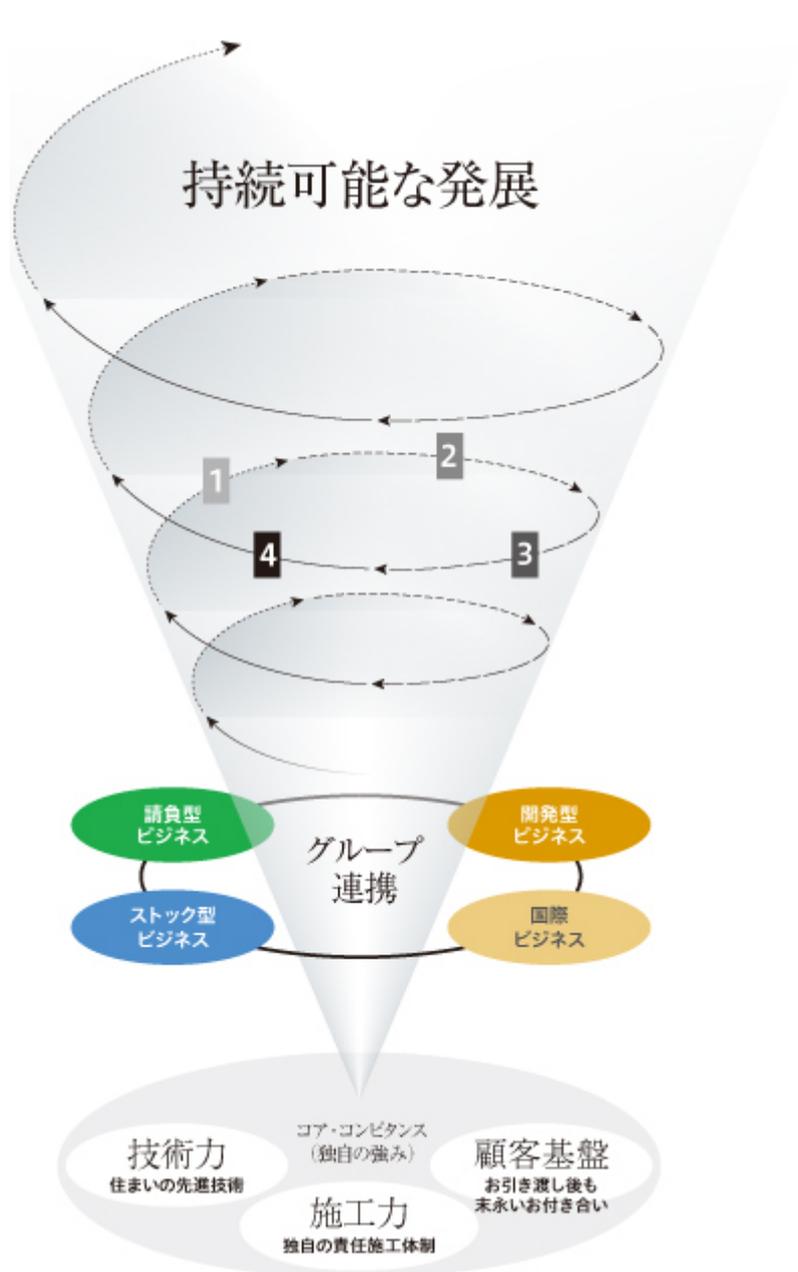
当社グループでは、年間販売戸数約5万戸の合理的な提案・施工や、約78万棟の戸建オーナー様のアフターサービスにおける「邸情報の一元化」によるビッグデータ活用をベースとしたシステムを構築してきました。同システムを活用した結果、工期短縮、大幅な業務コスト削減などを実現しました。また、主たる業務処理をiPhoneやiPadなどのスマートデバイスで行えるようにすることで、生産性の向上や、出先で完結する業務範囲拡大によるワーク・ライフ・バランスの実現など働き方の改革にもつながっています。さらに設計や現場監督の業務に関してITを活用した「能力の見える化」にも取り組んでいます。

## カスタマーズセンター 定期点検、依頼・相談対応件数 約 70 万件

積水ハウス従業員の約1割に当たる1450人が従事するアフターサービス部門のカスタマーズセンター。お客様から依頼・相談があった場合はもちろん迅速に対応しますが、特に要望がなくても、引き渡し後3カ月、1年、2年、5年、10年、15年、20年のタイミングで定期的に訪問しています（2009年5月以降契約のお客様に対する点検スケジュール）。また、戸建オーナー様に引き渡しから1年間、季節のお手入れ情報をお届けする「LOHAS（ロハス）訪問」を毎月実施しています。

## 2016年度に出会ったお客様 約 130 万人

地域密着の観点から、住まいづくりの現場ができるだけ社会に開かれたものになるようにと考え、住まいや暮らしに関する情報発信や現場見学の機会づくりに努めています。主な拠点となるのは全国各地の建築現場や展示場、「住まいの夢工場」や「納得工房」などの体験型学習施設です。また、さまざまなステークホルダーと共創し、新たな住文化を創造する業界初のオープンイノベーション拠点「住ムフムラボ」、住まいと環境の関係について学べる次世代育成の場「積水ハウス エコ・ファーストパーク」を公開しています。いずれもお客様との貴重な出会いの場と位置付けています。



- 4 利益を将来に向けて投資**

事業活動によって得た利益をもとに、人材育成への投資や業務効率化・コスト削減のためのIT投資、国際事業など将来に向けた投資を実施。

CSV戦略 5,6
- 3 スtock事業の拡大**

強固な顧客基盤とグループ連携を生かした強みで不動産フィー事業やリフォーム事業など社会の変化に応じたストック型ビジネスの事業領域を拡大。



CSV戦略 1,3,4,5
- 2 強固な顧客基盤の構築**

半世紀以上にわたり住宅産業をリードし続け、「住」に特化した事業展開で、戸建住宅や賃貸住宅など世界一の累積建築戸数を誇る強固な顧客基盤を構築。



CSV戦略 1,2,3,4,5
- 1 高付加価値な住宅の提供**

「グリーンファーストゼロ」をはじめ快適性・経済性・環境配慮を同時に実現する高付加価値な住宅の提供を通じて、高いお客様満足を実現。

CSV戦略 1,2,3,4,5,6

創造された主な価値・社会への影響

経済価値

売上高営業利益率 **9.1%**

利益体質の改善により営業利益は4期連続で過去最高を更新しました。売上高営業利益率も前年度から1.0ポイント向上しました。

戸建住宅1棟当たり単価 **3,729** 万円

「グリーンファーストゼロ」や3・4階建てなど高付加価値住宅の受注により、1棟当たり単価は前年比29万円アップしました。

## 環境価値

戸建住宅におけるCO<sub>2</sub>排出削減率  
(1990年比) **80.1** %

「グリーンファーストゼロ」に代表される環境配慮型住宅の普及により、前年度の75.5%から向上しました。

「グリーンファーストゼロ」比率 **70.4** %

高付加価値住宅の供給がCO<sub>2</sub>排出量の削減とお客様の安全・安心・快適、さらには幸せにつながるという強い信念のもと事業を展開しました。

## 住まい手価値

お客様満足度 **95.5** %

入居後1年アンケートにおける「非常に満足(43.3%)」「満足」「まあ満足」の合計比率は、ここ数年95%前後で推移しています。アンケート結果は詳細に分析し、PDCAのサイクルを回しています。

賃貸住宅一括借り上げ入居率 **96.5** %

高品質な賃貸住宅の建築と一括借り上げにより、安定経営を実現。入居率は2010年の95%から着実に向上しています。

## 社会価値

「積水ハウスマッチングプログラム」助成金額 **3,744** 万円

従業員が拠出した寄付金に会社が同額を上乗せし、さまざまな社会課題の解決に取り組むNPOなどの活動を支援しています。11年間で延べ200以上の団体に2億円を超える助成を実施しました。

経済産業省・東京証券取引所 「なでしこ銘柄2017」選定

女性活躍推進に優れた企業として選定されました。2013年、2015年、2016年に続く4度目の選定は、住宅・建設業界唯一です。

### 長期ビジョン

# サステナビリティビジョン2050

## 「サステナビリティ ビジョン2050」を策定

積水ハウスグループは2008年に、住まいからのCO<sub>2</sub>排出ゼロを目指す「2050年ビジョン」を宣言し、「脱炭素」経営にいち早くかじを切りました。社会システムの変化や技術革新のスピードが加速する中で、将来のさらなる環境変化に備え、より広範な事業領域において時間軸を意識した取り組みの方向性を示すことにしました。

お客様、従業員、長期投資家、サプライヤーなど、当社グループの長期的な価値実現に関心を持つステークホルダーと共有するために、2050年に向けた新たな長期ビジョンを策定しました。

### 長期ビジョン策定の背景・目的

20世紀の社会は、大量の資源利用に支えられた物の大量生産・消費によって、生活の不足・不自由・不便を解消することで、幸せの実現を図ってきました。このシステムは、暮らしのボトムアップには奏功したものの、化石エネルギーの大量消費に起因する地球温暖化等の環境問題を生み出し、同時にそのプロセスを通じ、社会的にもさまざまな不具合を生じさせることとなりました。

しかし今、物が飽和する中、人々の関心は物質的豊かさを超えた、より深い暮らしの質の追求に移りつつあります。このため企業に求められる役割は、単なる量の提供者から、持続可能な質の創造者へと変化しています。

当社グループはこうした認識のもと、2005年に「持続可能性」を経営の基軸に据える「サステナブル宣言」で事業の方向性を示し、一貫して「住」を通じた社会課題解決の可能性を提唱してきました。そして、2013年には「CSV（共有価値の創造）」を企業姿勢として正面から打ち出し、取り組みを重ねてきました。

SDGs<sup>※</sup>等の世界的な潮流を踏まえつつ、社会課題解決に向けて蓄積してきた事業活動の影響力をさらに発揮し、価値を創造することで新しい社会へと導くための長期ビジョンを示します。

※ SDGs：持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）

2015年9月、国連総会で採択された、社会・経済・環境面における「持続可能な開発」を目指す、先進国も途上国も含めた国際社会共通の目標。



## 2050年のチャレンジ目標

### 住まいのライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>ゼロ

リーディングカンパニーとして、住宅という製品について、材料購入から生産、販売、居住、解体までのライフサイクル全体において、再生可能エネルギーの利用も含めて、CO<sub>2</sub>排出量をゼロにします。



### 目指す姿

#### 脱炭素社会へ先導

地球温暖化による気候変動は私たちの暮らしに目に見える影響を与え始めています。化石燃料への依存を続けることなく、エネルギー問題に制約されず、質の高い安全な暮らしが可能な社会を実現します。



## 2050年のチャレンジ目標

### 事業を通じた生態系ネットワークの最大化

生態系の破壊につながる森林破壊をゼロにする（Zero Deforestation）ために「フェアウッド」調達100%を実現します。また、住宅建築、まちづくりにおける緑化を通じて、生態系保全、防災・減災、快適性等、自然が持つグリーンインフラ機能を賢く利用する都市緑化貢献度日本一の企業を目指します。



### 目指す姿

#### 人と自然の共生社会へ先導

豊かな自然のネットワークは、生物多様性の保全に寄与し、気候変動を緩和させるなど、私たちの暮らしを支える生態系サービスを守るだけでなく、人々の生活の質を改善し、つながりを強めることに貢献します。このネットワーク機能を最大化し、人と自然の共生社会を実現します。



## 2050年のチャレンジ目標

### 住まいのライフサイクルにおけるゼロエミッションの深化

住宅を良質な資産として育てるため、住まい方や社会変化に対応する適切なリフォーム・リノベーションを当社グループで提供。これらの過程で発生する廃棄物について、業界に先駆けて達成したゼロエミッションを深化させ、業界連携による社会インフラレベルでのゼロエミッションを実現します。



### 目指す姿

#### 資源循環型社会へ先導

世界人口の増加に伴い、資源やエネルギーの需要が高まる中、すべての人が安定した暮らしを送るため、技術や経済システムの革新によって、天然資源だけに依存しない、リサイクル資源を持続的に活用する循環型社会を実現します。



## 2050年のチャレンジ目標

### 住まいとコミュニティの豊かさを最大化

安全・安心・快適、最新技術の享受、健康、長寿、幸福感、家族との絆など、生活にとってポジティブな要素を「豊かさ」と位置付け、さまざまな角度からその可能性を追求します。「豊かさ」の最大化をミッションとして、新技術の開発、オープンイノベーションなどに挑み続けます。



### 目指す姿

#### 長寿先進・ダイバーシティ社会へ先導

高齢者が健康で誇り高く活躍する社会（長寿先進社会）、そして、多世代・多国籍・多様な価値観を持った人々が互いに好影響を発揮し合いながら持続可能なイノベーションを実現していく社会（ダイバーシティ社会）の形成を目指します。

## 価値創造のビジョンと戦略

### 長期ビジョン

## 中期経営計画とCSV戦略

### 「CSV 戦略」を推進

積水ハウスグループでは、住宅は社会課題の中心に位置するととらえ、持続可能な社会を実現するための重点テーマとして「CSV戦略」を設定しています。

GRIガイドライン（G4）の特定標準開示項目から選定した19のマテリアルな側面を中期経営計画に沿って、六つの「CSV戦略」として具体的な活動レベルに束ねています。

### 価値創造の重点テーマ「CSV 戦略」

	関係する2050年のチャレンジ目標
<b>1</b> <b>住宅のネット・ゼロ・エネルギー化</b> エネルギー問題に制約されない質の高い暮らしを実現し、環境配慮とお客様の健康寿命の伸長に貢献する	住まいのライフサイクルにおけるCO <sub>2</sub> ゼロ
<b>2</b> <b>生物多様性の保全</b> 事業の影響力を考慮し、持続可能な自然資本の利用によって生態系ネットワークを守る	事業を通じた生態系ネットワークの最大化
<b>3</b> <b>技術開発・生産・施工品質の維持・向上</b> 「最高の品質と技術」により、お客様の最大の満足を実現	住まいとコミュニティの豊かさを最大化
<b>4</b> <b>アフターサポートの充実による住宅の長寿命化</b> グループ各社の連携によって、お客様の暮らしを長期にわたりサポート。住まいの価値向上と資源循環につなげる	住まいのライフサイクルにおけるゼロエミッションの深化
<b>5</b> <b>ダイバーシティの推進と人材育成</b> 多様な人材の可能性を引き出し、互いを尊重しながら高付加価値を生み出す「サステナブルな企業集団」を目指す	住まいとコミュニティの豊かさを最大化
<b>6</b> <b>海外への事業展開</b> 住宅の枠を超え、環境技術とサステナブルな住環境の創造で、世界の安全・安心・快適な暮らしと地球環境保全に貢献する	住まいとコミュニティの豊かさを最大化

## ■ 「CSV 戦略」とG4のマテリアルな側面

CSV戦略	特定したG4のマテリアルな側面との相関
1 住宅のネット・ゼロ・エネルギー化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境:エネルギー</li> <li>●環境:大気への排出</li> <li>●環境:製品およびサービス</li> </ul>
2 生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境:生物多様性</li> <li>●環境:サプライヤーの環境評価</li> <li>●経済:調達慣行</li> </ul>
3 技術開発・生産・施工品質の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製品責任:顧客の安全衛生</li> <li>●製品責任:コンプライアンス</li> <li>●労働慣行:労働安全衛生</li> </ul>
4 アフターサポートの充実による住宅の長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境:排水および廃棄物</li> <li>●環境:製品およびサービス</li> <li>●製品責任:顧客の安全衛生</li> <li>●製品責任:コンプライアンス</li> <li>●製品責任:製品およびサービスのラベリング</li> </ul>
5 ダイバーシティの推進と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●労働慣行:多様性と機会均等</li> <li>●労働慣行:労働安全衛生</li> <li>●労働慣行:研修および教育</li> <li>●労働慣行:雇用</li> <li>●人権:投資</li> </ul>
6 海外への事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境:エネルギー</li> <li>●環境:生物多様性</li> <li>●製品責任:顧客の安全衛生</li> </ul>

## 第4次中期経営計画（2017-2019年度）

積水ハウスグループは、2020年1月期を最終年度とする中期経営計画を策定しました。

本計画では、IoT・AIに代表されるIT技術の飛躍的な進化、地球温暖化や高齢化に対応するために求められる住宅需要の変化、インバウンド需要の拡大や東京オリンピック開催など、2020年以降、日本の経済情勢とともに事業環境が大きく変化するととらえ、基本方針を「BEYOND2020に向けた『住』関連ビジネスの基盤づくり」としました。

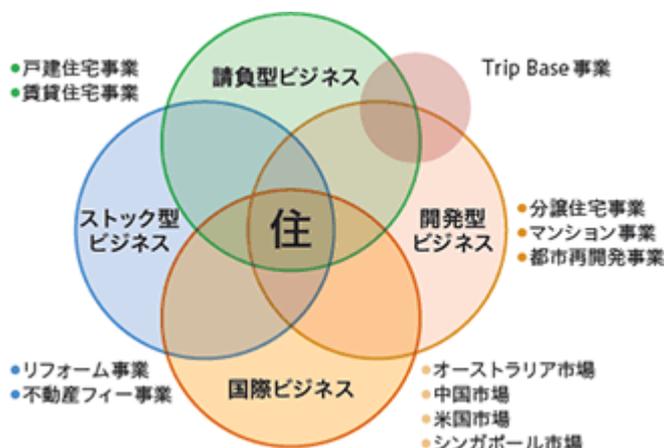
住宅関連ビジネスの強化はもとより、当社の工場出荷部材を生かした新たな事業領域の拡大、そして、2009年から取り組んできた国際事業を大きな柱の一つと位置付け、付加価値の高い住宅・住環境の普及を積極的に推進していきます。

### 【関連項目】

> [第4次中期経営計画](#) 

# BEYOND2020に向けた「住」関連ビジネスの基盤づくり

## ■ 基本方針



### 「住」に特化した成長戦略の展開から事業創出へ

<b>請負型 ビジネス</b>	高付加価値型の住宅を供給することにより安定成長を図るとともに、良質なストックの形成に努める。
<b>ストック型 ビジネス</b>	請負型ビジネスで形成した良質なストックの資産価値向上を目的としたビジネスを展開する。
<b>開発型 ビジネス</b>	環境創造型の開発により、良質なまちづくりを図るとともに、資産回転率の向上により安定成長を図る。

### 「請負・ストック・開発」に続く4本目の柱へ

<b>国際 ビジネス</b>	国内で培った環境技術を基盤に、Sekisuihouse Qualityをグローバル展開させる。
--------------------	---

## ■ 事業推進方針

### コア・コンピタンス

<b>技術力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SLOW &amp; SMART (環境技術、シーカス、エアキス、スマートユニバーサルデザイン、オリジナル外壁など)</li> <li>3・4階建て商品</li> <li>チーフアーキテクト、一級建築士</li> </ul>	×
<b>顧客基盤</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界No.1の累積建築戸数と、アフターサービス体制</li> <li>カスタマーズセンター、積和不動産による長期にわたるリレーションシップ</li> <li>多様な顧客接点(展示場、住まいの夢工場、住まいの参観日、シャーマゾンフェスタなど)</li> </ul>	×
<b>施工力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積和建設による責任施工体制</li> <li>積水ハウス会によるロイヤルティの高い施工協力体制</li> </ul>	×

<b>新技術</b>	<b>Open Innovation</b>
IoT	産学連携
AI	共同開発
Robot	アライアンス (業務提携)
Block chain	ビジネス コンテスト
	ベンチャー投資
	M&A

2020年8月 創立60周年

ハードとソフトを融合した新たな事業展開を図る

## ■ 収益計画

	2016年度	2017年度 (計画)	2018年度 (計画)	2019年度 (計画)
売上高 (億円)	20,269	21,440	22,000	23,830
営業利益 (億円)	1,841	1,920	2,000	2,300
営業利益率	9.1%	9.0%	9.1%	9.7%
ROE	11.3%	11.3%	10%台を安定的に創出	

## 中期経営計画におけるCSV戦略の位置付け

持続可能性を基軸に据えたCSV戦略は、経営方針・経営計画の方向性と合致することにより有効に機能します。

中期経営計画に盛り込まれた「事業戦略」と「持続的成長を目指したESGへの取り組み」におけるCSV戦略の位置付けを下記に示します。

### 第4次中期経営計画（2017～2019年度）の事業戦略とCSV戦略

#### 事業戦略

1～6 = CSV戦略との対応

		請負型 ビジネス	ストック型 ビジネス	開発型 ビジネス	国際 ビジネス
成長戦略	基本方針	1,2 高付加価値 住宅の供給	4 グループ連携 の強化	1,2,6 将来にわたる資産価値の形成	
	重点課題	損益分岐点管理に  ● ZEH ● 3・4階建て住宅 ● 収益物件賃貸住宅 ● エクステリア事業 ● Trip Base事業 ● CRE、PRE事業	よる利益率の向上  ● 高入居率の確保 ● 省エネルギーフォーム ● リノベーション ● スムストック ● 既存住宅流通	成長投資と回転率の向上  ● 戸建分譲地の取得 ● まちなみ重視の 開発 ● Trip Base事業 ● 出口戦略の強化	● 米国における BtoC ビジネスへの挑戦 ● 環境重視型開発の 推進
経営基盤	コア・ コンピタンス	1,3 技術力	4 顧客基盤	施工力	

#### 持続的成長を目指したESGへの取り組み

<p>1,2</p> <p><b>環境経営 E</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World) に選定</li> <li>● ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファーストゼロ」の推進が「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」「第26回地球環境大賞 経済産業大臣賞」を受賞</li> <li>● 日本経済新聞社「第20回環境経営度調査」において全指標最高評価で建設業首位を獲得</li> </ul>	<p>5</p> <p><b>社会性向上 S</b></p> <p>〈働き方改革〉 「わくわく、ドキドキする職場」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公正な評価と見える化</li> <li>● ITによる業務の効率化</li> <li>● 「ライフワークバランス」の実現 ⇒生産性向上</li> </ul> <p>〈ダイバーシティの推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性活躍推進</li> <li>● 仕事と育児の両立支援</li> <li>● 仕事と介護の両立支援</li> <li>● 障がい者が働きやすい職場づくり</li> </ul>	<p><b>ガバナンス G</b></p> <p>コーポレートガバナンスを経営の重要課題として位置付け、経営の透明性を確保し、適時・適切なチェック機能と監視機能が発揮できるよう、取締役会に2人の社外取締役、監査役会に3人の社外監査役を配置。また、執行役員制を導入しており、経営責任の明確化と業務執行の迅速化を図る。 2016年には「コーポレートガバナンス基本方針」を制定。さらなるガバナンス強化に努める。</p>
--	--	--

### 長期ビジョン

# ブランドビジョン「SLOW & SMART」

## 中期経営計画とブランドビジョン

積水ハウスグループは、事業ドメインを「住」に特化した成長戦略を展開し、成長を加速するため2012年11月に第2次中期経営計画を策定しました。

この中期経営計画では、これまで手掛けてきた多岐にわたる先進技術や暮らし方の提案等を、統一したブランドビジョン「SLOW & SMART」に集約しました。

## 心地よさの実現とそれを支える技術

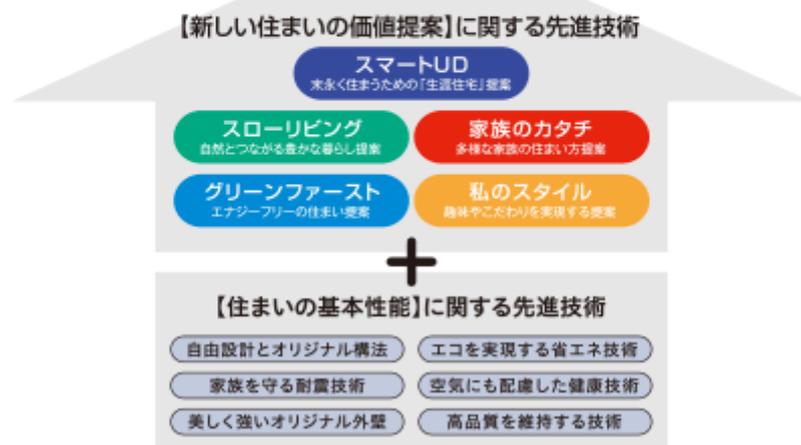
やすらぐ、くつろぐ、味わう、楽しむなど、住宅の普遍的な価値はその心地よさにあります。そして、これらを実現するためには確固たる先進技術が必要になります。当社はこの考えを「SLOW & SMART」ということばで表現しています。お客様にご満足いただき、社会的責任を果たすためのブランドビジョンとして位置付け、日々業務に取り組んでいます。

[「SLOW & SMART」ホームページ](#) 

住まいの基本性能（6要素）と「いつも今が快適」な暮らし提案（5要素）に関する技術力でお客様の豊かで心地よい暮らしを提供することが「SLOW & SMART」の具現化です。

# SLOW & SMART

ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。



## 住まいの基本性能に関する先進技術

### ■ ①自由設計とオリジナル構法

---

お客様にとってオンリーワンの住まいをオーダーメイドで設計します。安全・安心を実現する構法はユニバーサルフレーム・システム（軽量鉄骨構法）、βシステム構法（重量鉄骨構法）、シャーウッド構法（木造住宅）です。

[「積水ハウスの戸建住宅」 ホームページ](#) 

### ■ ②エコを実現する省エネ技術

---

省エネ・創エネで快適な生活を実現するとともに地球環境にも配慮します。

[地球温暖化の防止](#)

### ■ ③家族を守る耐震技術

---

地震に耐える耐震構造の他、揺れを抑える制震構造、免震構造などを用意しています。

[「ユニバーサルフレームシステム」 ホームページ](#) 

[省エネと防災を両立する省エネ・防災仕様](#)

[「地震と住まい」 ホームページ](#) 

### ■ ④空気にも配慮した健康技術

---

5つの化学物質（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン）について居住時の濃度を国の指針値の2分の1以下に低減した空気環境配慮仕様「エアキス」を用意しています。

[空気環境配慮仕様「エアキス」の普及／「エコチル調査」企業サポーターとして活動](#)

### ■ ⑤美しく強いオリジナル外壁

---

美しく意匠性に富み、耐久性も考慮した多様な外壁を用意しています。

[「DYNE・CONCRETE（ダインコンクリート）」 ホームページ](#) 

[「ECORDEC（エコルデック）」 ホームページ](#) 

[「SHウォール」 ホームページ](#) 

[「シャーウッド構法」 ホームページ](#) 

### ■ ⑥高品質を維持する技術

---

生産品質、施工品質の向上に取り組んでいます。

[「生産体制」 ホームページ](#) 

[「施工体制」 ホームページ](#) 

[CSV戦略③技術開発・生産・施工品質の維持・向上](#)

## 新しい住まいの価値提案に関する先進技術

### ■ ①スマートUD ～末永く住まうための生涯住宅提案～

---

心地よさをプラスした独自のユニバーサルデザインをご提案しています。

[「スマートユニバーサルデザイン」 ホームページ](#) 

### ■ ②家族のカタチ ～多様な家族の住まい方提案～

---

家族が集まって住むカタチは多様です。お客様のライフステージに応じて、1.5世帯、2世帯、2.5世帯、3世帯などn世帯分のスタイルを提案しています。

[「積水ハウスのキッズでざいん コドモイドコロ」 ホームページ](#) 

[「トモイエ 共働きファミリーが暮らす家」 ホームページ](#) 

### ■ ③スローリビング ～自然とつながる豊かな暮らし提案～

---

生活スピードをゆるめ、ゆったりした時間をとりもどす空間を提案しています。

[「BeSai+e \(ビー・サイエ\)」 ホームページ](#) 

### ■ ④私のスタイル ～趣味やこだわりを実現する提案～

---

ご家族のライフスタイルやこだわりを様々な提案で実現に導きます。

[「ライフスタイル提案」 ホームページ](#) 

### ■ ⑤グリーンファースト ～エナジーフリーの住まい提案～

---

ご家族のライフスタイルやこだわりを様々な提案で実現に導きます。  
次世代の「快適性」、「経済性」、「環境配慮」を実現します。

[「Green First \(グリーンファースト\)」 ホームページ](#) 

## 価値創造のビジョンと戦略

# 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主・投資家の皆様に対し、経営情報について、各種の法定開示のみならずプレスリリースやホームページ等さまざまな手段を通じて積極的かつ公正に開示しています。また、面談など直接的なコミュニケーションによる積極的な対話にも努め、皆様からいただく意見を経営判断の参考としています。

これらの活動を通じて、株主・投資家の皆様に企業価値を適正に評価していただけるよう努めています。

## 見学会・説明会

株主様向けの見学会を2016年度は関東「住まいの夢工場」および「エコ・ファースト パーク」で開催し、住まいづくりがまるごと分かる体験型テーマパークの見学や、当社が積み重ねてきた環境活動の歴史の体験学習を通じ、参加の皆様当社への信頼を高めていただきました。

投資家様に対しては、各地で開催している会社説明会・セミナーなど、事業内容への理解を深めていただく機会を設けています。さらに企業・IR情報を掲載したホームページや株主様向けの事業報告書「ビジネスレポート」においても、経営戦略や経営計画について分かりやすく説明しています。



株主様向け見学会の様子



会社説明会・セミナーの様子

## 単元株

株主・投資家の皆様にとって投資しやすい環境を整備し、株式の流動性の一層の向上を図ることを目的に、2013年12月2日に単元株式を100株へ変更しました。

## インターネットによる議決権行使

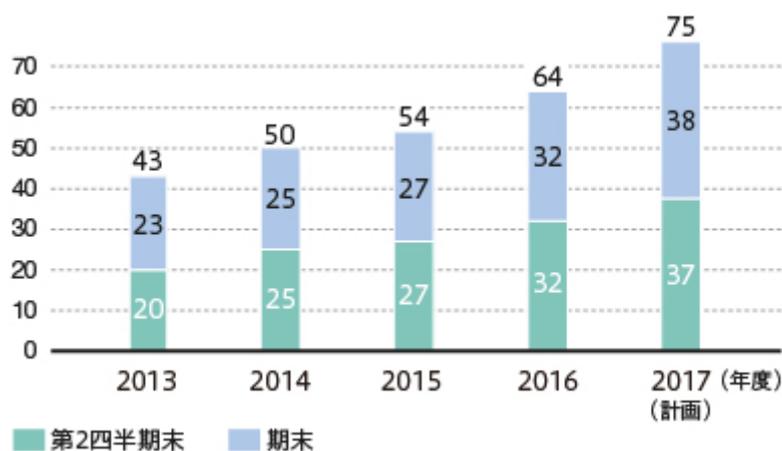
株主総会の開催にあたり、総会に出席できない株主様を対象に、書面のほかインターネットからの議決権行使を実施し、利便性の向上に努めています。

## 株主様への利益還元 ～平均配当性向 40%～

当社は株主価値の最大化を経営における重要課題の一つと認識しており、持続的な事業成長による1株当たり利益の成長を図ることはもとより、各年度における利益またはキャッシュ・フローの状況や将来の事業展開等を総合的に勘案し、成長投資、中長期的な平均配当性向40%の株主還元、時機に応じた自己株式取得および消却の実施等、資産効率の改善を通じた株主利益の増進に努めていきます。

2016年度は順調な利益成長に伴い、年間64円の配当を実施しました。

### ■ 配当金 (円)



### 株主優待贈呈制度

決算期末現在1000株以上の当社株式を保有する株主様を対象として「魚沼産こしひかり5kg」を贈呈しています。

#### 贈呈品の寄贈

株主様へ贈呈する「魚沼産こしひかり」は、株主様の辞退や転居先不明などの理由で返却されるケースがあります。これらについては、株主様のご理解のもと、障がい者福祉施設や高齢者福祉施設・団体等へ、制度導入時から寄贈しています。



2016年度の寄贈 計 3,725 kg

神奈川県手をつなぐ育成会（横浜市）/医療法人祥仁会（秋田市）/鶴浦医院（岩手県陸前高田市）/株式会社ほたるの里（兵庫県宝塚市）